



旭日小綬章を受章した 三上 聰彦氏

(ノボル鋼鉄社長、元全日本特殊鋼流通協会会長、特殊鋼俱楽部副会長)



大手特殊鋼問屋、ノボル鋼鉄の2代目社長に就任したのは1988年9月。弱冠42歳の若さだったが、その後の幾多の経済的荒波を乗り越えて、会社を発展させてきた。当時すでに

に関東のハガネ業界法人移行後の98年5月に全特協副会長になりました。

89年5月には就任。2002年6月から08年6月まで

全日本特殊鋼販売組合連合会、東京特殊

会長をつとめ、特殊鋼販売組合（現全日

本特殊鋼流通協会、

同・東京支部）の理

事に選任され、社団

6年間の功績や社業

发展の実績により、

特殊鋼流通業 長期ビジョンを策定

「全特協、認められうれしい」

（05年3月刊行）をまとめ上げたことだ。会長に就任した02年当時はバブル崩壊組織とその事業が認められたことが何よりも喜ばしい。事業と一緒に進めた方達に改めて感謝したい

るところで、全特協会長時代、「三上さんだから」と周囲が協力を惜しまなかつたことを記者は覚えている。

毎年4月1日を「はがねの日」と定め、業界のイメージアップや支部活動の的指針を示すため

秋の叙勲で旭日小綬章を受章した。なったのも三上会長になっての05年度から。足させ、自らも参画して報告書に結実させた。この報告書は

人柄は誠実温厚で、時代の05年度から。足させ、自らも参画して報告書に結実させた。この報告書は

寛容に富み、多くの業界活動の功績を挙げればきりがない

が、特筆されるのは今も全く色褪せていない。

「特殊鋼流通加工業」の現状分析と将来ビ

亡き先代の三上登氏が勳五等を受章したのは1987年11月。親子2代の受章

査研究事業は抜きで「会長経験者として皆さんを代表して頂いたもので

ある、全特協といふ

ことだ。あり、全特協といふ

と呼ばれた厳しい時代であり喜ばしい。事業を

価格の高騰、需要家改めて感謝したい

との弁にも三上さん

らしさがにじむ。法人化後の全特協関係者

に、03年10月にワーキンググループを発

なったのも三上会長になっての05年度から。足させ、自らも参画して報告書に結実させた。この報告書は

寛容に富み、多くの業界活動の功績を挙げればきりがない

が、特筆されるのは今も全く色褪せていない。

「特殊鋼流通加工業」の現状分析と将来ビ

亡き先代の三上登氏が勳五等を受章したのは1987年11月。親子2代の受章

査研究事業は抜きで「会長経験者として皆さんを代表して頂いたもので

ある、全特協といふことだ。あり、全特協といふと呼ばれた厳しい時代であり喜ばしい。事業を

価格の高騰、需要家改めて感謝したいとの弁にも三上さん

らしさがにじむ。法人化後の全特協関係者

に、03年10月にワーキンググループを発